

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第72号 2020年12月7日発行

+++++

山茶花が咲くようになり急に冬らしくなりました。ハヤトウリも30個ほど取れましたので、ユズと一緒にご近所に配りました。散歩の経路にある近所の0邸では時々、TVサスペンスの撮影があります。表札が代わっては、悪徳国会議員だとかの豪邸として、旧家屋と庭園が出てきます。なくしてほしい日本家屋ですね。素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、そして真情を見いだしては称賛し、共感し、結び励まし合いたいですね。「季節の花々」では、ささやかな散歩道や日帰り探索も掲載しています。皆様もこの冬を耐え忍び、自由な春を待ちながら、御健康には十分に注意をなさり、お大事にお過ごしください。どうぞ、良いクリスマスと幸せなお正月をお迎えください。

○お知らせ

1. 植物と人々の博物館をめぐるミュージアム研究会、雑穀街道普及会などの在り方について、検討を続けています。年内にでも皆様にメモを提示して、植物と人々の博物館の在り方や将来計画について、ご意見をうかがいたいです。研究員や友の会会員になって、書籍や資料などを活用していただけると嬉しいです。

COVID19の感染が小康状態になったら、資料整理や雑穀見本園の草取りに行きます。環境教育学会と一緒に創立した渡辺隆一さんには研究員になることをお引き受けいただきました。

2. トランジション・ジャパン

エコミュージアム日本村(トランジション小菅)もトランジション・ネットワークに参加しています。イギリスのサイトにも国際登録しました(下記URL)。

また、研究員はトランジション小金井(TTK)の会員でもあります。

<https://transitioninitiative.org/initiatives/ecomuseum-japan-village/>

○予定:

1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日: 2021年春までは引き続きヴァイラス対策のため休館しますが、必要がある方は御連絡下さい。

2) 雑穀の種子継:

小菅では秋子の丹精で良い種子が十分採種できましたので、是非栽培していただきたく、必要な方に来年用種子を差し上げます。藤野の宮本茶園でも種子継しています。

www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html

3) **民族植物学ノオト**： 第 14 号に、植物と人々に関する随筆など、ご寄稿を歓迎します。電子出版ですからカラー写真も大丈夫です。正月明けくらいまでにご原稿を頂ければ嬉しいです。

今号の現況は次の通りです。2021 年 3 月中に発行します。

巻頭言

西村さん予定

渡辺さん予定

安孫子さん予定

その他

木俣仮題：山村農人降矢静夫の教養（第一論考）

木俣仮題：ムラ社会における心の構造と機能の事例分析（第二論考）

黒澤さん：自然文化誌研究会の活動記録 2020

植物と人々の博物館活動記録 2020

編集後記

.....

なお、第三論考「素原の超個人主義」は下記ホームページのエッセイに既に掲載しました。 www.millettimplic.net/essey/essey.html

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズ）で読めます。国会図書館にも収録されています。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。

メールマガジンもすべて記録してあります。すべて費用はかかりません。

www.ppmusee.org/goods.html

4) **電子書籍**：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍の項で読めます。

これらは国立国会図書館の e デポに登録され、公開されています。

『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』『日本雑穀のむら』は一部公開、改訂しています。

第五章中部・北陸地方の雑穀文化複合の補論 5 赤石山脈周辺の雑穀の変異と系統について公開しました。

『第四紀植物』は、第 5 章でイネ科数属のうち一部、ライムギ属について近日に公開します。引き続き、コムギ、ハトムギ、カモジグサ属などについて整理しています。植物の栽培化が始まる前の一年生草本の進化の様態を実験データで提示し、考察しています。

www.millettimplic.net/weedlife/flowers.html

“Essentials of Ethnobotany”の一部公開はまだ先になります。これらは書き終えたら、電子出版にします。

5) 森とむらの図書室

寄贈冊子：お米の勉強会会報、クリンネス、現代農業、うかたま、季刊地域、グリーンもあ、グリーン・ウォッチなどをありがたく頂いています。**会員雑誌**：雑穀研究、環境文明 21 会報。

6) 今月の図書：

小倉紀蔵 2020、群島の文明と大陸の文明、PHP 研究所、東京。

Collins, H. and B. Evans 2007. Rethinking Expertise, The University of Chicago Press, Chicago, USA.

最近、日本語訳が出ましたが、書評を参照して原本を読むことにしました。

2. 雑穀街道普及会：

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は今にもいよいよ絶滅しそうな状況にあります。雑穀農耕文化複合は、日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。[広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。](#) 2023 年は国際雑穀年になります。ぜひ、賛同者リストに加わって下さり、提案が広がるようにご援助くださいますよう、世界、全国各地からのご連絡を宜しく願います。雑穀街道沿いの地場産物や活動の訪問紹介も掲載することにします。

* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45 年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。現在は第 5 章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

3. 他団体のお知らせ

皆様方は既に予感しておいででしょう。これからは一層厳しい時代に入るのでしょから、家族を守るために本気で心して自給知足の努力や食料備蓄を心掛ける必要があると思います。

家族の食べ物は自分たちで得ること（生業）が原則で、足りない食べ物を分けていただいていること（農林漁業）に感謝したいです。すべて消費、廃棄だけでは、生き

物の文明、素のままの美しい暮らしには添いません。専任研究員は、日本国憲法に環境原理、生業の自由、食料主権などを明文化する提案をしています。

国民・市民は自分たちを守るための条文を憲法に明記するように考える必要があります。

既にいくつかの国々では明文化されています。

お米の勉強会 (兵庫県)

とても熱心な市民の学習会です。歴史も長く、イネ中心に多くの資料蓄積があります。連絡先は下記です。

Okome.benkyokai@gmail.com

家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン (国連家族農業の10年)

ご関心の方は是非ご入会ください。研究員個人として賛同し、会員になり、ホームページに意見を掲載していただいています。

<https://www.sffnj.net/single-post/2019/05/01/voice-mikio-kimata>

連絡先は下記です。

E-mail: info@ffpj.org URL: <https://www.ffpj.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/ffpj2019/> Twitter: [@FFPJ2019](https://twitter.com/FFPJ2019)

自然文化誌研究会 (東京都日野市) : 代表 中込卓男、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

エコミュージアム日本村 / ミューゼス研究会 / トランジション小菅 (山梨県小菅村) : 代表、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) : 館長 木下善晴

日本村塾生・研究員: 木俣美樹男 (東京)、西村俊 (石川)、藤盛礼恵 (千葉)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野) ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長: 黒澤友彦 (山梨県小菅村) npo-inch@wine.plala.or.jp

公式 HP: 自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行: 木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

雑穀・民族植物学関係の個人 HP: 生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>
